

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人 敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里	【ユニット名:けやき】	
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内字栢谷1919番の3		
自己評価作成日	平成24年6月10日	評価結果市町村受理日	平成24年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護力の向上を後押しするべく、ヘルパー2級習得支援、介護福祉士勉強会、看護師奨学金制度があり、スキルアップに力を入れている。同じ敷地内に託児所が設けられ、働きやすい環境にも力を入れている。自事業所の多機能化により、地域の方のニーズに応えやすい環境が整いつつある。小学校の体験学習、シニアカレッジさん研修受け入れ、ヘルパー研修受け入れと、開放された施設ある。自宅に近い雰囲気をつくり、日々穏やかに過ごして頂けるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071000453&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年6月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地の緑に囲まれた静かな環境で母体法人の関連施設と同一の敷地内の一角に建てられ落ち着いた風情のホームである。出入り口には静かな鈴音がする風鈴がかり人のぬくもりがそこ此処に感じられ誰もが又訪問したくなる雰囲気がある場となっている。入居者と共に生活する職員は「尊厳・尊重・入居者を人生の先輩として接し、本人の気持ちを大切に受け入れ家族の思いにも寄り添えるように」と日々向上を目指し、家庭的に暮らしていくことを常に念頭に置き、入居者はありのままの自分を表出して何の衛いもなく安心して毎日を過ごしている姿があるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年から、介護を介し地域の発展に尽くせるような幸楽の里の理念を、考えているが、答えが見つからない。しかし、皆で考え作り上げていくことで志を持って働けるのではないかと考えている。	ホーム独自の理念を受付のカウンターや職員トイレ内に掲示している。項目と説明が多く職員間で共通認識を持ち意思統一することが難しい面もみられ、簡潔でイメージしやすい文言を模索中である。	入居者が地域の中でその人らしく暮らせるために、理念の持つ意義の大切さを職員間で共有し、意思統一できる理念となることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	要請があれば、自治会の会議にも参加し、馴染みの関係を作り、夏祭り・運動会に利用者さん・職員で参加させていただき、クリスマス会には幸楽の里にご招待することが、慣例となっている。	事業所独自のつながりよりも母体である老健施設の傘下での付き合いが多い。自治会の会議などにも出席し馴染みの関係の構築を図っている。地域で開催される行事には入居者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に月1回、話相手やレクリエーションに参加いただき、クリスマス会やお花見等にもお手伝いをいただいた後、参加していただくことで、一層の理解を得られるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の地域運営推進会議の開催に昨年より平野地区の区長さんにも参加いただき、より広い地域の方との交流を心掛けている。	出席者のメンバーは決まっており、事業所の状況や行事報告等で終わる事が多い。家族への開催の案内はグループホーム便りや、口頭でしているが参加がみられない。	事業所内の取り組みや家族の意見、改善課題を討議する良い機会である。家族が気軽に参加できるよう働きかけ、意見や要望を運営に取り入れられるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	5月の地域包括ケア会議に参加しました。今年度のテーマは、「認知症について」ということなので、出来る限り参加し連携していきたい。	市が開催する地域ケア会議に職員が参加したり、市からの要請やボランティア活動の受け入れなど積極的に関り、相互の情報交換がスムーズに行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中は鍵をかけていない。夜9時から朝7時30分まで施錠している。玄関や出入り口に鈴等を付けて人の出入りに気づけるようにしている。	拘束が利用者に及ぼす影響を十分認識したうえで、状況から何故こうなったかの原因をみつけ、拘束することなく解決出来るよう取り組んでいる。言葉による拘束にも気をつけて尊厳が損なわれることがないように注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年「虐待防止」の勉強会に職員が参加している。今年度も5月24日の認知症支援協会の「虐待防止」の研修に参加し、フロアの会議で発表してもらい、周知徹底をはかっている。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、成年後見制度が必要なことが増えてくると思われる。法人で顧問弁護士を講師に迎えて勉強会があった。疑問があれば些細なことでも顧問弁護士に相談してほしいということなので、積極的に活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明には時間をかけてわかりやすく説明しているつもりであるが、後になって、不十分だったと感じることがあれば、その都度再度説明させていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お支払日・ケアプランの説明時など折りあるごとに「私どもで出来ることはないですか」「こうしてほしいというご要望はないですか」などと、お声掛けするようにしています。	入居者を担当している職員が、気になる事や家族に伝えたい内容を記録して、会議で検討し内容を共有して家族に報告している。家族からの意見についてもその際に話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では、月2回の全体会議を設けている。幸楽の里はフロアごとに月1回の会議と年2回の個人面談で意見を述べる機会がある。	会議での討議内容が多いため、意見や提案は事前に職員各自があらかじめまとめた内容をその場で話すようにして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者については、外部のコンサルタントの面接および、エリアの長との面談があった。職員に対しては自己評価の後、管理者が面接し、白樺・けやきの管理者が評価することで公平を期するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就職し1年を越える者には2級ヘルパー、3年を越える者には介護福祉士の資格取得を奨励し、その間勤務日の調整や法人内研修を実施して支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで、情報交換する機会はあるがネットワーク作りや勉強会には至らない。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しをゆっくり聴くことで、まず思いを受け止める。その中から本人の願いや支援してほしいことを導き出し、幸楽の里でなら安心して生活でき、信頼してもらえ関係作りに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていることや悩んでいることをゆっくりお聞きし要望に添えるような情報や資料を収集し面会時などに、話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活環境や永年培ってきた習慣などをお聞きし、今何が大事か何が必要かを見極め、職員全員で共有し、ご家族様にも協力いただき、落ち着いた生活が出来るよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さん自身が出来ることを見極め、積極的に参加していただき、他の人に必要とされ感謝されていると実感を持てる工夫を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に施設行事(お祭り・クリスマス会)に参加していただいたり、お花見や遠足も利用者さんと親しくなっているお年を召したご家族様にお声掛けし一緒に楽しんでいただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が来所された時は、利用者さんと楽しい時間が過ごせるよう、お部屋にお茶やコーヒー等をお持ちしています。	ホームでの生活が長くなると家族・親族以外の馴染みの関係は途絶えがちになるが、シニアカレッジによる定期的な人の訪問や近くにある喫茶店等へでかけることから、新たな馴染みの人や場所ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の和を大切に考えています。入所して日の浅い方は感情の表出が激しい時もありますので、時間をかけて、グループけやきになるように努めております。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が多くなり、入院になっても、見舞いをかかさず、家族様の話しを聞き体調に合った施設が決まるよう協力する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おりあるごとに、利用者さんの思いや話を聞いて、本人が家族様に伝えることが出来ないことは、エリア会議などで話し合い、ご家族様に日頃の様子や思いをお伝えし協力をお願いする。	腋を閉めて体を硬くする等、本人が不快なことで表す様子や否定される態度を通してその裏にある本当の思いや気持ちを察し、声かけなどもトーンや間合い等も考慮しその思いが聞けるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域の風習やいままでの生活環境を把握し、編み物が得意だった方には編み物を、歌が得意だった方には歌をどうですかの声掛けを行ない、また大きな行事は計画をたてて楽しんでいただく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の個人データに記入し申し送り時や出勤時に目を通し現状を把握し、利用者さんに挨拶する時1人1人の様子を見て勤務につくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアー会議などで各担当者より出された問題点や改善策を皆で話し合い、介護計画の見直しをしている。	日頃入居者を担当している職員が日々の様子をまとめた報告書や、会議での意見を基に、本人に即したケアプランが昼間と夜間の2種類作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の事情も考慮し、出来る限り希望に添えるよう柔軟に取り組んでいる。必要に応じて、歯科衛生士・看護師・理学療法士に協力を得ている。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さんには季節や地域の行事に参加していただいております、お花を届けてくださる方・毎月来て下さる方・オカリナ・アコーディオンでボランティアして下さる方など協力して下さる方が増えてきています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のご希望に沿うよう考慮し受診時の同行や往診・訪問看護をお願いしています。受診報告書・往診報告書を作成し、ご家族様・法人内ナース・職員が体調を把握し、支援している。	馴染みのかかりつけ医が往診を行っている。受診は家族が行うが、できない時は職員が同行する。受診報告書を作成し家族と共有している。定期健診の際は日頃の様子を文書にして渡し、受診内容も家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事柄でも記録に残し、必要と思える時はその人だけの記録を作成し、法人内ナース・歯科衛生士・理学療法士・訪問看護師に相談しやすい体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった時は、服薬や入院に必要なもの、生活歴等を出来るだけ早く提供する。面会時も利用者さんに会うだけでなく、担当ナースに状況を聞いたり、退院後必要と思われることの情報交換や、やり方の確認をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様・主治医・管理者で、終末期のこと、今後の治療方法について同じ事を何度も話し合い確認し、職員全員に確認事項を浸透するようにしている。	契約時に看とりの説明をしている。本人家族の希望があれば受け入れ態勢はできている。必要な時期に本人・家族や主治医・関係者と何度も話し合い確認を取りながら、家族の意向に添える支援が出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各居室の押入れに心配蘇生の仕方を書いた紙とガーゼを貼り付けてある。事務室電話のところに緊急時対応マニュアルがあり、あわてて電話番号を間違わないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議の度に話がでるが、良い方法がない。沈着冷静に対処するしかない。管理する担当者を決め、食品・水など備蓄したいとおもっている。	昨年の努力目標は達成できなかったため本年度は6月に事業所、9月には消防署参加の訓練を予定している。職員は避難経路など個々に想定し事があった時の心構えをしているが不安感もある。	近隣地区の土地柄もあり、地域で作る消防団の協力については周知されているが、夜間を想定した訓練の実施はまだ無く今後期待する。

【事業所名】グループホーム 幸楽の里 ユニット名: けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に今日1日お願いしますという気持ちで挨拶し、「～をお願いしますか」「～しませんか」の言葉かけにし、トイレの時など大きな声かけをせず、失禁・失便は穏やかな声かけで速やかに対処する。	食事後の服薬時の支援では、そっと差し出してゆっくりと声掛けしている。トイレ誘導もさりげなく誘い無理なく行うなど、理念に基づき一人ひとりの尊厳を保つよう配慮が為されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのペースにあわせ、いろんな声掛けをしてみるが、無理強いはしない。「～してみませんか」「～はどうですか」など意思を示せるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けし拒否があれば、時間を置いたり、職員が交代して声掛けする。どうしても嫌と言われた時は、記録に残す。また、成功した言葉掛けや時間帯を職員同士話し合っ行ってみる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや季節に合わせて、利用者様自身が、自己決定できるような声掛けをするよう心がけている。衣類の不足分は、季節ごとにチェックし家族様に購入していただいたり、了解を得て職員が購入するときがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ食材の数を多く使用し、個々人の食事を把握しながら盛り付け・食器など工夫している。また、折りあるごとに「何が好きですか?」とか「お母さんが作ってくれたもので何がおいしかった?」とか聞くようにしている。	昔作って食べた料理を聞いて献立に取り入れている。食事を途中で放棄してしまいやすい人には気分を換えて再度食事が出来る様に配慮するなど楽しみながら食事が出来る支援が為されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は体調に合わせて、おかゆや、おにぎりにするときがある。水分は24時間ごとに合計するが、水分不足に対応できる時間帯に小計を出し、目標の水分を寒天・ゼリー・きなこ牛乳などにして飲んでもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回歯科衛生士が口腔ケアを行い、必要に応じて歯科医を受診をする。歯科衛生士が口の状態をみて歯ブラシを選び毎食後口腔ケアをおこなっている。入れ歯の方は夜間歯を預かり入れ歯洗浄剤につける。ハブラシ・コップも夜間は哺乳ビンなどの消毒液につけている。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンを把握し、体操・ゲームの間にさりげなく声掛けしたり、時間を決めてトイレ誘導するときも自尊心を傷つけないようにしている。	出来るだけトイレ排泄を心掛けている。失禁した時も本人の自尊心を傷つけないように下着の交換をしたり、夜間頻尿のため失禁が心配で眠れない入居者には夜間だけポータブル使用の支援もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、トイレにゆっくり座ってもらったり、散歩の時間を長く取ってもらうようにし、食事面では、ブルーベリー・さつまいも・冷たい牛乳・寒天などを多く摂ってもらうようにしているが年齢的なこともあり記録をつけて、薬を服用し便秘が続かないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は隔日であるが、拒否される場合は、無理強いせず、変更したり、希望者に入ってもらっているようにしている。	家庭的な風呂でゆっくりと個人のペースで入浴出来る。入浴は午後からとなっているが入浴拒否や体調の悪いとき等は本人の都合に合わせて時間やスタッフを変えるなど柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基準のベッドや布団やシーツを用意し2週間に1回業者に出している。以前から使用している寝具または褥創防止のベッドパッドなどやエアコン・電気毛布・電気コタツなどでその人にとって、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服用している薬は、薬箱に1週間分セットし、薬名・用法など記入したものを貼ってある。急性期の薬は、受診報告書に服用薬品名カードを添付し、冷蔵庫・薬箱に何日分と申し送りノートに記入するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前好きだったことや、今興味のあることを会話の中から聞き出し、自分から進んでやっていただいたときは感謝の言葉で労をねぎらい「助かりました。またお願いしますね」の言葉を添える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様によっては、外食にいかれたり、兄弟全員が集まる機会を設けられたり、墓参りに行かれる方もいらっしゃいます。利用者さんの様子を見て、家族様との外出をこちらからお願ひすることもあります。	天気の良い日は自由に散歩をし外気浴を楽しんでいる。家族と出かけることもある。近くに商店がなく、2日に1回食材の買出しにも行っている。法人全体の取り組みで職員と入居者が宿泊旅行に行く等の外出支援もしている。	

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名:けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物する場所がなく、隔日ごとに食材の買出しに行くとき同行され、週刊誌やお菓子を買われる方がおりましたが、現在はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの希望があるときは、家族様の負担にならない程度に電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から見える山は、心を穏やかにしてくれるようです。職員が自庭から、切ってくる花を飾ったり、ホール壁には、毎月ディスプレイを一緒に作りかえたり、BGMもヒーリング曲を流し落ち着いた雰囲気になるよう心掛けています。	玄関や洗面台に季節の花が活けられ食堂の窓からは周囲の山の緑が見える。食堂から和室の障子の格子が見え家庭的な落ち着いた雰囲気である。対面式炊事場からは調理の音や匂いが漂い、居心地のよい共用空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に集まる所は東洗面台の畳のイスのところ。職員に見えにくく気のあった方がおしゃべりするのにはいいようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具を居室に置いて少しでも居心地が良いように工夫し危険とおもわれる物は、家族様と相談し持ち帰っていただいている。	部屋の入り口には、本人と担当者が一緒に作った表札が掛けられている。室内は普段使い慣れた机、鏡台などが使い勝手の良いように配置され、それぞれ居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で車イスを操りトイレに行けるよう、動線には物を置かないようにしている。車イスが物にぶつかる時は動かせるものを動かすようにしている。危険な時は声掛けし、安全に移動できる所まで、誘導する。		